

3-58-0 (包紙)

「徳田主水様

智泉院

貴報」

3-58-1

(端裏書)

「徳田主水様

智泉院

貴報」

御使簡敬誦先以酷

暑御座候得共弥御壯健

被成御勤奉珍重候

然者大谷氏近日御

下闋之由、依之御出被成候ハ、

得貴候様と被仰聞

致承知候、乍去拙僧義

大願御座候而

御支配宮江茂奉願

当五月初より今月中

引籠立印大法

百座修法、右別行

之内者禁足寺役

諸辺共不取計相慎候

右之仕合御座候間、此度八

御断申上候、若近日

御下向候ハ、追而滿行

以後自是書状等

相認貴公様へ可進候

兎角右五十日別行

之儀候間、此度者御用捨

被下度候、貴答旁

如此御座候、已上

六月廿三日

3-58-2

御手翰致拝見候

酷寒御座候得共

弥御壯健之御事

奉珍候、然者大谷

氏より之書状一通御

届被下忝落手

仕候、於江戸表

家禄筋首尾好

御好之通ニ成行

御怡悦と存奉候、最初

推量仕候通ニ上野之

表成行大慶仕候

此上

公辺之儀、弥首尾

好候へかしと奉存候、且

弥助方江之書状

相心得申候、直ニ上野

表書付有之候、九右衛門殿

書状封込差下シ

可申候、最早無余日候

間、明十六早々妙寿院

下向之節頼遣可

申候、左様ニ思召可

被下候、小子儀も

痛所御座候而先日

引籠保養仕候

猶來陽万々候

目出度可得貴意候

以上

智泉院

十二月廿二日

徳田主水様